各議員の氏名の左にあるＱＲコードをスマートフォン等の専用アプリで読み取ると、一般質問の録画映像をご覧いただけます。



Q ホールを低コストで３０年使える建築物として整備することについて

こしがや無所属の会　**菊地　貴光** 議員

問　札幌市民ホールは鉄骨造１５００席のホールをリースで整備した。サンシティ再整備では６０年から８０年使用する施設ではなく、急速に進む少子化による将来の人口減少、人口動態を見定められる形として、今回は３０年から４０年使用する施設として整備してはどうか。

市長　方針案作成に係る取り組みの中で、関係自治体や民間事業者に聞き取りを行うなど調査検討していきたい。

Q 高齢者に対する肺炎球菌ワクチン接種について

公明党越谷市議団　**和泉田 宏幸** 議員

問　高齢者の肺炎予防のため、既接種者も含め６５歳以上を対象に沈降２０価肺炎球菌結合型ワクチン・２１価肺炎球菌結合型ワクチンの定期接種の事業実施の考えは。

市長　高齢者への肺炎球菌ワクチンの接種は、肺炎の重症化予防、健康寿命延伸および医療費抑制等に有効である。国により年齢拡大等の経過措置が講じられた際は、速やかに市民への周知を図り、希望者に迅速かつ適切に接種できるよう対応していく。

Q ＴＫＢ４８の推進について

自由民主党越谷市議団　**清田 巳喜男** 議員

問　災害関連死を防ぎ、市民の尊厳を守るため、ＴＫＢ４８を推進すべきと考えるが、市長の見解は。

市長　本市においては、不衛生な生活環境が原因となる健康被害を未然に防ぐため、自動ラップ式トイレや簡易間仕切り、段ボールベッド等の備蓄に計画的に取り組むなど、発災の初動段階から生活の質を底上げするための備えを進めている。

Q 既存の支援が届きにくい児童生徒への支援について

立憲民主党越谷市議団　**土屋　来夢** 議員

問　県では、不登校やひきこもり等の青少年を、社会体験や就労体験、学び直しにつなぐ「セカンドチャンスの場づくり」を行っている。こうした市以外の支援についても本人・家庭に示す考えは。

教育長　国、県や民間団体等の支援情報を把握し、学校等へ周知している。今後も、議員提案の県事業をはじめ、支援情報を幅広く集め、本人、保護者に周知、提案できるよう努めていく。

Q 新規調節池の底面活用について

自由民主党越谷市議団　**島田　玲子** 議員

問　近年、大雨による災害が頻発している中、新規調節池の早期完成が求められている。令和７年度から進めている調節池の整備内容と底面活用の検討状況は。

市長　新規調節池の整備は埼玉県と越谷市が連携して進めており、底面の形状や大きさは現在検討中である。今後は地元や市民意見を尊重しながらアーバンスポーツ施設、多目的広場、臨時駐車場などの活用方法を決定していく。



リユース展望台から望む新規調節池の建設予定地（赤枠内）

Q 開票事務を翌日行う事について

無　所　属　**清水　泉** 議員

問　本市の開票は即日開票だが、深夜に及ぶことが多い。開票事務に携わる職員の負担、立会人の市民への負担、本市の費用負担がある。一部他市では翌日開票をしている。本市において翌日開票の考えは。

選挙管理委員会事務局長　開票事務に従事する職員や選挙人の負担が深夜まで及ぶことは認識している。選挙法では、「選挙結果を選挙人に対して速やかに知らせるように努めなければならない」と規定がある。

Q 市民のための文化施設「越谷サンシティ」のあり方について

日本共産党越谷市議団　**工藤　秀次** 議員

問　市民のための文化施設越谷サンシティのあり方についての考えは。

市長　大ホールについて２０００席あるいは、１５００席から１８００席程度がいいのではないかといったご意見もいただいている。民間事業者の声、市民の利用や鑑賞の観点、将来的な財政負担の観点なども考慮しながら、最適な規模の設定に向けて検討する。１２月定例会に方針案を上程したい。

Q 防犯カメラ増設と刑法犯認知件数の減少について

ＮＥＸＴ越谷　**野口　高明** 議員

問　防犯カメラ３００台を増設し刑法犯認知件数は前年同期比１４．４％減少した。今後犯罪発生地点や類型を分析し、効果の高い場所へ戦略的に追加配置する考えは。

市長　防犯カメラの増設が直接的な効果なのかは運用開始から１年未満で判断が難しいが、当然効果の高い場所からの設置が防犯につながっていく。効果検証を進め、市民・自治会の設置要望を踏まえ、さらなる防犯カメラの増設も含め検討していく。

Q 越谷アルファーズの新ホームアリーナ整備の見通しについて

ＮＥＸＴ越谷　**立澤　貴明** 議員

問　越谷アルファーズの新ホームアリーナ整備の見通しについて見解は。市としていつまでクラブ側の結論を待つのか。

市長　本年２月、アリーナ整備支援検討業務を委託した。本年４月、クラブから検討に遅れが生じ必要な期間までに事業計画を提出することが困難との申出があり、６月３０日付で契約解除した。難しい状況があると思っている。何年というつもりはないが見通しはつけていかなければいけない。

Q 猛暑時における遠距離通学児童の安全確保について

ＮＥＸＴ越谷　**松島　孝夫** 議員

問　小学生の通学距離の目安である「おおむね４キロ以内」は、暑さや熱中症リスクなどの安全性を考慮した基準なのか。

教育長　考慮されていないものと考える。

問　猛暑時は４キロという従来の目安だけに依拠せず、実際の通学時間や暑さ指数などを踏まえ、本市独自の安全確保や支援策を具体的に検討すべきでは。

市長　まずは教育委員会でしっかりと議論していただき、それをもって考えたい。

Q 教育現場における「防災ヘルメット」の配備について

ＮＥＸＴ越谷　**金井　直樹** 議員

問　市長はこどもの命を守る施策を最優先と表明する。現在の防災頭巾に比べ落下物から頭部を守る効果が高い国家検定合格の折り畳み式防災ヘルメットへの転換を具体的に検討すべきではないか。

市長　防災ヘルメットが持つ効果については理解をしているが、現場での実用上の課題があることも認識している。今後も、教育委員会と連携を図りながら命を守る施策について考えていきたい。